

2024（令和6）年1月31日

## 令和4年度 教職課程自己点検・評価へのアクション・プラン

埼玉工業大学 教職センター

2022（令和4）年度に実施された教職課程自己点検・評価を受けて、学科および教職センターにおいてアクション・プランが策定された。

### 工学部機械工学科

#### ■教職課程履修学生の支援体制強化

教職課程履修学生の支援強化を目的に、専任教員への情報共有を図るため、教職課程コーディネーター1名を選任する。コーディネーターを通じて課程認定申請、変更届、教育実習、時間割について共有を図る。

#### ■教職課程履修学生の教員の支援強化

各教員は自分の担任の学生の教職課程履修学生の履修状況、履修計画、時間割など個別のフォローを下記の通り行う。また、必要に応じて毎月の学科会議で状況や課題を共有する。

1年生：毎月行っているグループ面談時に確認

2年生：担任が個別指導時に確認

3年生、4年生：研究室配属担当教員が適宜確認

### 工学部生命環境化学科

#### ■指摘事項

[基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有] (p.4)

関係教員間の目的・目標の共有に関して、工学部機械工学科、生命環境化学科、および人間社会学部情報社会学科では関係教員間の目的・目標の共有不足が指摘された。

[基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫] (p.6)

教職と学科の関係・連携を深める必要があるという点で学科と教職課程の見解は一致しており、関係の深化・実質化を図るような取り組みが求められる。

[総合評価] (p.19)

一方、教職課程と学科との間の目的・目標の共有は不十分な点があり、連携を深める必要がある。

#### ■アクション・プラン

指摘された課題はいずれも教職課程と学科の情報共有・連携の不足に基づくものである。よってより一層の情報共有・連携を図るため、学科内で教職課程コーディネーター1名を選任し、コーディネーターを通じて 課程認定申請、変更届、教育実習、時間割等について共有を図る。

### 工学部情報システム学科

#### ■指摘事項

##### (1) 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有 [取り組み上の課題]

情報システム学科においては、学生の学びを充実させるための科目の整理統合に向けて、教職課程との連携の必要性が報告された。

##### (2) 基準項目1-2 [取り組み上の課題]

教職と学科の関係・連携を深める必要があるという点で学科と教職課程の見解は一致しており、関係の深化・実質化を図るような取り組みが求められる。

情報システム学科からは、科目統廃合などで事務職員のもつ専門知識がもっと活用されるべきという指摘があった。

#### ■アクション・プランの策定

上記指摘・課題は、いずれも教職課程と学科の情報共有・連携の不足に基づくものである。よってより一層の情報共有・連携を図るため、学科内で教職課程コーディネーター1名を教務委員から選任し、コーディネーターを通じて課程認定申請、変更届、教育実習、時間割等について 共有を図る。

また指摘事項(1)ならびに(2)-②は教職課程だけにとどまらない課題でもある。本学科は従来から設置科目数が多いことは指摘をされていることであり、2025年度の学科改組にあわせて、カリキュラムワーキング・グループを設置し、科目の統廃合を通じて、明解な履修モデルを策定し、教職課程科目(特に教科に対する科目)とのわかりやすい関連付けを行う予定である。

### 人間社会学部情報社会学科

#### ■教職担当教員と学科専任教員との協力体制の強化

- ・教職課程を履修している学生の学力や授業態度等の情報共有  
⇒教職担当教員と学科教員との連携
- ・就活時期における教員志望の学生についての情報共有（就職課にも分かるように LiveCampus「学生カルテ」への記入を行う）  
⇒教員相互及び就職課とも連携を図る
- ・教育実習における実習訪問の情報共有及び実習時の学生の様子等の情報共有  
⇒教員同士及び教務課教職課程担当との連携を一層スムーズにする
- 教職課程で求められる学生像等の情報発信における課題
- ・情報社会学科における求められる人物像と教職課程における求められる人物像は一致しているものの、教員を目指す学生に関しては①一定水準以上の学力②教科を教える技能③高いコミュニケーション能力が求められる  
⇒①②③が追い付かない学生に関しては学科教員と教職担当で協力して技能アップに努める
- 「他者とコミュニケーションを取りつつ連帯し活動する能力」の育成
- ・上記にも取り上げたコミュニケーション能力について、2020年から3～4年間における新型コロナウイルス感染防止対策により、対面授業・意見交換・グループワークの実施が不可能であったことを鑑み、この期間に高校時代を過ごした学生については、グループワークの苦手な学生が見受けられる  
⇒グループワークや意見交換といった授業形態を行えるようになったことで積極的に「他者とコミュニケーションを取りつつ連帯し活動する能力」を育成していくように努める

## 人間社会学部心理学科

### ■教職課程履修学生の学修支援の拡充

教職課程履修学生の学修支援を拡充するために、教職担当教員との連携と、学生の学修相談対応とを担う教職課程コーディネーターを設置する。これにより、教職担当教員との情報共有など今後の教員養成に関わる体制を強化する。

### ■教師に必要な実践的能力の育成

既存の多様な情報処理関連授業および演習型授業を通して、ICT活用の実践能力およびコミュニケーション能力の育成指導を行う。

### ■学科の専門性を活かした人材育成

心理学の専門性から期待される学生像の1つに、生徒理解を核とした教育場面での活躍があると考えられる。教職課程履修学生には、専門性を活かした教育活動を意識して学修をすすめるように指導する。

## 教職センター

### ■情報共有の機会拡大

教職課程アニュアルレポートの配付に加え、毎年度発行している教職課程の手引を全専任教員に配付するとともに、全学教職課程運営委員会の資料をベースに教職課程の現況資料を作成し配付することにより、情報共有の拡大を図った。

一方、各学科に対し、教職との窓口機能を担う教職課程コーディネーターとして選任することを依頼した。

### ■ウェブを通じた情報発信の強化

教職課程ウェブページにおいて「ふさわしい学生像」についての情報を追加し、求める学生像を広く発信し、教職課程の活動の周知を図った。

[教職志望の皆さんへ](#)

[本学の教職課程で教師を目指す皆さんへ](#)

### ■職員研修の充実

職員研修の充実を事務局に提案する。内容は ICT 活用、文書作成管理、DX 導入、コミュニケーションと心理的安全性、等。あわせて、事務局における 利用ソフトの現代化 (Office365 への対応とテンプレート更新、メールソフトの 切り替え) を求める。

### ■学科アクション・プランの策定

報告書内で指摘された学科個別の課題について、各学科でアクション・プランを取りまとめ、実施する。アクション・プランは 10 月末までに策定し報告することとし、各学科において実施する。

以上